

はじめに

「ともに支えあい、みんなの笑顔が見えるまちづくり」をめざして

現代は、さまざまなことが便利になり、地域で助けあう必要性が低くなってきました。そのことによって近所付き合いの希薄化が進んでいると言われていています。しかしながら、地域には、介護や子育てなど、家庭だけでは対応困難な課題があり、少子高齢化や核家族化が進む中で、福祉サービスとともに地域における助けあいがますます重要になってきました。

このような状況の中、第5期地域福祉実践計画では、住民同士をつなぎ、そこに社協がつながるといふ考えのもと、「ふれあいサロン」への活動支援や、市民参加型事業の展開に力を入れてきました。苫小牧市の「みんなでふくし大作戦！」のミッションとして始まった住民自ら運営するふれあいサロンは、年々広がりを見せており、本会としても地域とつながる場として、とても有意義なものになっております。また、新たに地域課題や個別課題への相談員となるコミュニティーソーシャルワーカー（CSW）と、地域支援の担い手づくりや見守り活動を支える生活支援コーディネーターが配置されました。このことにより、制度やサービスの狭間にある方への支援や地域の課題に対し、住民とともに解決する体制づくりが始まりました。

第6期地域福祉実践計画では、第5期計画の検証とともに、国が進める「地域共生社会」の実現に向け、市民参加による支援体制をさらに充実させ、お互いに助けあう地域風土をつくり「ともに支えあい、みんなの笑顔が見えるまちづくり」の実現を目指していきたいと考えております。誰もが安心して暮らせるまちづくりをしていくための方策として、今後もCSWや生活支援コーディネーターの体制を充実させていきます。また、市民参加型事業として、犬猫一時預かり事業、日常生活自立支援事業、成年後見事業など、市民ニーズに対応できる体制づくりを引き続き行っていきます。

今期の計画策定にあたっては、苫小牧市地域福祉計画と協働しており、6年間の計画といたしました。が、中間年の3年後には苫小牧市とともに見直しを行い、苫小牧市と連携して地域づくりを進めていきます。

私どもは時代の変化を的確に捉え総力を挙げて参りますので、これまで以上の御理解と御支援を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、策定にあたり御支援御協力いただきました市民の方々や各関係機関に対しまして感謝申し上げます。

令和3年4月

社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会
会 長 渡 邊 敏 明

